

# 金融取引税 (FTTs) に関する国際電話会合

2015年11月25日(水)

Sarah Anderson

## 1. ヨーロッパのキャンペーン最新状況報告、12月8日のECOFINについて含む by David Hillman, Stamp Out Poverty, and Peter Wahl, WEED

**David :** FTTを導入することにコミットしている EU11 カ国政府間の交渉の現状については最後に添付した詳細資料を参照のこと。まとめると、3つの未決定事項がある。

- ① デリバティブ課税の範囲
- ② マーケット・メーカーによる株式取引の課税除外
- ③ 株式取引課税に発行地原則と居住地原則のどちらを活用するか

12月8日のEU財務相会合では全体合意が発表される可能性がある。フランスは気候サミットにて合意に到達したことを発表できるよう強力に押し進めてきた。もし合意が発表されれば、欧州委員会は「指令」をイースターまでに、あるいは遅くとも7月までに作成し、迅速に各国の立法化プロセスへ乗せるよう試みることになる。現実的には2017年1月1日に税収があがるというスケジュールの実現はかなり厳しいが、2017年中のどこかのタイミングで実現することはあり得るだろう。

**Peter :** 欧州委員会とドイツ財務省官僚との会合によれば、12月8日の基本合意到達について「用心深い(ながらも)楽観視」があるという。もし妥結に至れば、全体としては良い決定となるだろう——昨年フランスがデリバティブ課税をやめ株式のネット取引にのみ課税することを押し進めようとしたときのものよりは随分良い。目下デリバティブ課税の唯一の除外項目は、国債に100%関係するものとなっている。これが意味するところを明確に定義すれば、非常に限定的な除外となるだろう。ドイツでは社会民主党がかなり限定的な定義を採用するよう財務省へ求めている。私たちは、デリバティブ課税例外はわずか2~8%となるであろうと予測している。このことについてパニックになることはない。

**David:** 12月8日の会合ではその他のことについても進展することが見込まれる。一つは、EU28全加盟国へ向けてEU11カ国がFTTをめぐるどんな協議を行っているのか周知する必要がある、という趣旨の文書を準備していることである。これは残されているいくつかの相違を解消する一つの良い機会となるかもしれない。二つ目に、12月8日会合においてFTTの議題の位置づけをアップグレードするよう求める圧力がある。もし(議題が)「議論の現状(state of play)」から「政策方針協議(policy orientation discussion)」へ変更されたのなら、それは11の政府が合意に到達したサインと見ることが出来るだろう。

## 2. パリ気候サミット —FTTを求める絶好の機会

パリの緊急事態に伴い、その他の大都市で(気候サミットに関する)大規模なデモを実施しようという動きがある(アメリカでは12月3日にロサンジェルスでNNUによる大行進が企画されている)。

パリでは以下のことに取り組まれている。

- ・ アフリカ諸国の政府から気候変動対策財源にFTTが必要であるという発言を求める。主要ターゲットはセネガル、マリ、モロッコ。
- ・ オックスファムは12月8日、脆弱な地域における気候変動の影響に焦点をあてたプレス会合をパリのセキュリティ圏内にて実施する予定。もしFTTの合意が(同日に)あれば、そのことに言及することができるだろう。

## 3. その他のアクション

- ・ イギリスのキャンペーンのトムはEU財務相会合の前日に市民連帯を示すためのオンライン・アクションを企画する。

- ・ 12月8日の前進に向けて、影響力をもつリーダーからの声明やプレス・リリース、論説などを出し、業界からの強力な反対に直面するであろう EU11 カ国を擁護し合意がなされるよう活動を展開する。
- ・ パリのサミットにて FTT が取り上げられるような方法をさらに検討していく。

#### 4. 次回会合：2016年1月7日（木）午前9時（Eastern）

### EU FTT をめぐる交渉サマリー、2015年11月23日（by Stamp Out Poverty）

#### 主要な問題：

12月8日に何らかの発表があるとすれば、解決しなければならない問題がまだいくつか残されている。確実に合意に至るという保証はない。以下、残された3つの問題について重要な項目順に述べる。

#### ① デリバティブの課税範囲

ドイツやスペインは国債に100%関連するデリバティブを除外するよう求めている。イタリアとスロベニアはいかなる例外も望んでおらず—彼らはすべてのデリバティブを課税対象としたい—いかなる例外も（金融）産業による深刻な悪用対象となるだろうと議論している。妥結はおそらく100%国債関連のもの、かつ「現物決済（相殺決済ではないもの）」を例外とする限定的なものとなるかもしれない(\*1)。これは実際の契約のうちほんのわずかな取引にしか該当しないため、物議を醸している。また、この制限が金融産業の例外悪用能力をどれほど抑制することにつながるのかは不透明である。マンフレッドは妥結に向けてドイツが態度を軟化するようさらなる圧力をかけるべきだと判断している。

(\*1) 例：スワップ取引の場合、対等額で現金損益を相殺するのではなく、実際にドイツ債券とフランス債券を契約満了時に交換することを指す。

#### ② マーケット・メーカーの株式課税除外

いくつかの小国はいかなる例外も望んでいないが、フランスやその他諸国（ドイツも支持）はかなり広い例外適用を求めている。欧州委員会やその他専門家は例外をつくることで自己勘定取引が非課税となることを憂慮している。すべての参加国は、流動株のうち特定の取引をマーケット・メイキング例外として制限する方法が現実的な道筋だろうという点には合意しているが（技術的解決策は引き続き検討されてはいる）、その原則についてはまだ結論に至っていない。ただしこの動きは前途有望のようだ。また、この点については大国が小国に（税収再分配を通じて）同意することも可能だろうが、それでは税の効果が弱まってしまう。

#### ③ 発行地原則 vs 居住地原則（=EU11カ国で発行した株式にのみ課税するのか、EU11カ国内に居住地をおく機関が取引したすべての株式に課税するのか）

現時点でこの問題は自動的拡張条項を含めることで解決されようとしている。これは当初はEU11カ国発行の株式にのみ課税するが、将来の特定期日（3年後？）には居住地原則にもとづくすべての株式取引へと課税対象を広げること、その時点で参加国の反対が多数を占めていようともその拡張を実施することを意味する。

#### 各国の立場

- ・ ベルギーは交渉態度を和らげているように見える。彼らは FTT グループを抜けることよりも、すでに実施している株式や債券へ既に課税を維持する余地について憂慮しているようだ。これはベルギーがこれまで表明してきたことと矛盾している。
- ・ フランスは広範なマーケット・メーカー除外を望んでおり、その主張はある程度ドイツの支持を得ている。

- ・ スペインは国債に関連する金利デリバティブを課税対象外にしたいと考えており、ドイツも同様の考えである。スロベニアとイタリアはいかなる例外もつくるべきではないと主張している。
- ・ エストニアとスロバキア（そしてその他一部の小国）は、税収を最大限確保できるよう課税範囲をなるべく広くもたせたい。
- ・ フランスは税率の議論が始まればデリバティブ課税は低率とするよう主張するだろう。

#### 審議プロセス

- ・ FTT は現在 ECOFIN（財務相会合）の議題のうち「議論の現状」枠に入っている。もしこれが「政策方針協議」へとアップグレードされたら、議論を進展させていくという強いシグナルが発信されることとなる。合意見込みがあるとオーストラリア政府が判断すれば、議長国に対し議題のアップグレードを依頼することが出来よう。
- ・ 出されるであろう声明は、おそらく以前オーストラリアが準備した 1 ページの提案書と似たものとなるだろう。それをもとに大臣らのプレス会合が実施されると思われる。
- ・ 主要な内容に一度合意できれば、残された問題（税率、年金、金融市場における非金融機関の取引の扱いなど）について迅速に取り組みられるかもしれない。
- ・ 欧州委員会は、加盟国（特にドイツ）での導入準備プロセスの加速と合わせ、オランダが議長国を担当する期間（※2016年1月～6月）に間に合うよう「指令」を起草するよう目指すだろう。つまり最速で FTT は 2017 年 1 月に導入される。
- ・ もし小国が本審議プロセスから抜けようとする場合には、FTT のプロジェクトを脅かしかねない深刻な政治的シグナルとなるだろう。
- ・ 12 月 8 日に合意に至らなかった場合、本プロセスは勢いを失うことになるかもしれない。特にこれまで音頭を取ってきたオーストリアはその役割から退く可能性がある。

#### 主要内容以外のこと、税収配分について

- ・ デリバティブ課税の税率は欧州委員会の提案よりも低いものとなる見込みだが、「指令」に税率の自動的上昇を規定することは可能である。
- ・ 年金基金については、FTT の対象に含めた方が良いが、参加国にとっては政府が後押しする年金貯蓄のインセンティブを若干増大させることでこれを補填した方が良い。そうすることで FTT は簡素かつ適用が簡単となる。
- ・ 最近の財務相会合では税収目標や税収配分に関する議論はなかった。

（翻訳 by K. Tsuda）

## **International Conference Call on Financial Transaction Taxes (FTTs)**

Wed., Nov. 25, 2015

### **1. Europe campaign update, including December 8 Ecofin (David Hillman, Stamp Out Poverty, and Peter Wahl, WEED)**

David: See below for a detailed update on the state of the negotiations between the 11 EU governments that have committed to implementing a coordinated financial transaction tax. Briefly, there are three outstanding areas:

- 1) Scope of derivatives
- 2) exemption for marketmakers for shares
- 3) whether to use the issuance or the residence principle for shares

There is a very decent chance that a general agreement will be announced at the December 8 meeting of EU finance ministers. France has been pushing hard to get an agreement that could be announced at the climate summit. If a deal is announced, the European Commission would plan to create a directive (i.e., a bill in US legislative lingo) by Easter or at least by June and then try to fast-track this into national legislation. Realistically, the date of January 1, 2017 for getting revenue is probably too tight, but at some point during 2017 is possible.

Peter: based on meetings with the European Commission and the German finance ministry officials, there is “careful optimism” about a basic agreement on December 8. If there is a compromise, overall it will be a good deal—much better than what we expected a year ago when France was pushing for no coverage of derivatives and only taxing the netting of trades. Currently, the only exemption for derivatives on the table is for those that are 100 percent linked to government bonds. This would be a very limited exemption if you have a clear definition of what that means. In Germany, the Social Democrats are trying to pressure the finance ministry to accept a very narrow definition. And so what we are likely to wind up with is only 2 to 8 percent of derivatives exempted. It is no reason to panic.

David: there are other things happening in advance of the December 8 meeting. One is that the EU 11 are preparing a paper that they need to do to inform the EU 28 of what they're doing on FTT. This might be an opportunity to iron out some of these remaining differences. The second thing is that there is pressure to upgrade FTT on the agenda of the December 8 meeting. If they reclassify it from a “state of play” to a “policy orientation discussion” then we have a good sign that they have reached an agreement.

### **2. The Paris climate summit - getting the most out of it for the FTT**

Because of the security situation in Paris, there is a big push to have large mobilizations in other major cities. (In the US, there will be a big march organized by NNU in Los Angeles on December 3)

In Paris, there are a few things people are working on:

Getting African governments to speak up on the need for FTT for climate finance. The three top targets are Senegal, Mali and Morocco.

Oxfam will do a press conference on December eight inside the security zone focusing on the impact of climate change on vulnerable communities. If there is an FTT deal, they will use that to promote it.

### **3. Other Actions**

- Tom of the UK campaign will be circulating an E-action soon for people to show solidarity on the day before the EU finance ministers meeting.
- Everyone is encourage to do work in advance of December 8 to lay the groundwork for statements by influential leaders, press releases, and op-eds to give cover to the EU 11 in the face of what will surely be a fierce backlash from the industry.
- Several people volunteered to continue to connect off-line to find more ways to lift up FTT at the Paris Summit

#### 4. Date for next call: Thursday, Jan. 7, 2016, 9 am Eastern

Reminder: Please be sure to join the listserv dedicated to international FTT campaign ([transactions-tax@googlegroups.com](mailto:transactions-tax@googlegroups.com)). You can sign up by going to: <http://groups.google.com/group/transactions-tax?hl=en> or email [sarah@ips-dc.org](mailto:sarah@ips-dc.org) and ask her to sign you up. Call information is posted to the global crisis list, but more detailed information on FTT is exchanged on this list.

-----

#### Intel Summary 23/11/15 (by Stamp Out Poverty)

##### The big issues:

There are three remaining issues that must be resolved if there is to be an announcement on 8<sup>th</sup> December. A deal is not guaranteed. These three issues are (in order of importance):

1. **Scope of derivatives.** Germany and Spain want to exempt derivatives that are 100% linked to government debt. Italy and Slovenia do not want any exemption – they want all derivatives to be taxed - and argue that any exemption will be severely exploited by the industry. A compromise might emerge around restricting the exemption to contracts that are both 100% linked to government debt *and physically delivered upon* (rather than cash settled)[1]. This is controversial, as only a very small minority of contracts are actually delivered upon. It is also unclear how much this would restrict the ability of the financial industry to exploit the exemption. *Manfred judged that more pressure was needed on Germany to soften them up to a compromise.*
2. **The scope of the market-makers exemption for shares.** Several smaller countries do not want any exemption, whilst France and others (backed by Germany) want a reasonably broad exemption. The Commission and other technicians are concerned that any exemption will allow proprietary trading to go untaxed. All participating states have agreed that a feasible way forward might be to restrict the market-making exemption to trading in a specified list of illiquid shares. The precise definition for an illiquid share has yet to be agreed (although technical solutions are being worked on), and the principle has also not been conclusively agreed upon. However, this looks promising. It might also be possible for the larger states to buy off the smaller ones on this point (by reallocating revenue), but this would result in a weaker tax.
3. **Issuance versus residence for shares (i.e. whether to tax just EU11 issued shares, rather than all shares traded by EU11 resident institutions).** This issue is on the point of being resolved through the inclusion of an automatic expansion clause. This means that the tax will initially apply to only EU11-issued shares, but at a specified future date (after 3 years?), the tax will expand to include all shares traded according to the residence principle, unless a simple majority of the participating countries opposes the expansion at this point.

##### Country Positions Summary:

- Belgium appear relaxed in the negotiations, and more concerned with maintaining space to continue with their existing taxation of shares and bonds than with leaving the FTT group. This contradicts what they have said publicly.
- France wants a broad market-makers exemption and have been backed to some extent by Germany.

- Spain want to exclude interest rate derivatives linked to government debt, as do Germany. Slovenia and Italy are arguing for no exemption.
- Estonia and Slovenia (and some other small states) want the tax to be as broad as possible to raise maximum revenue.
- France will push for low rates on derivatives when this discussion begins.

### **Process**

- The FTT is currently on the ECOFIN agenda as a 'state of play' item. Upgrading this to a 'policy orientation discussion' would send a stronger signal about progress on the file. The Austrians can request that the Presidency do this if they think an agreement is likely.
- An announcement would probably come with a release similar to the Austrian one page proposal, with this also discussed in ministers' press conferences afterwards.
- Once the core engine is agreed, the remaining issues (including rates, pensions, and treatment of non-financial institutions trading in financial markets) might be settled relatively quickly.
- The Commission would aim to have the Directive drafted by the end of the Dutch Presidency, with an accelerated transposition process for Member States (especially Germany), meaning that the tax could be introduced, at the earliest, in January 2017.
- If any of the smaller states were to leave the process, this would send a serious negative political signal that may threaten the initiative.
- If there is no agreement on the 8<sup>th</sup> then the process may well lose momentum. In particular, the Austrians might step back from their role as facilitators.

### **Beyond the core engine, and allocation**

- Although rates for derivatives are likely to be lower than the Commission proposal, it is possible that automatic increases in rates will be written into the Directive.
- On pension funds, it would be better for them to be included in the FTT, but for participating states to compensate for this by slightly increasing existing state-backed incentives for pensions savings. This keeps the FTT simple and easy to apply.
- There has been no discussion of a revenue target or revenue allocation amongst finance ministers at recent meetings.

---

[1] E.g. in the case of a swap, you actually exchange a German bond for a French bond at the end of the contract, rather than working out the relevant cash gain or loss and settling the contract this way.